

キャンパス点描

学部オープンキャンパス2019を開催しました ……………

2019年7月13日(土)～15日(月・祝)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。雨で足元が悪い中、6,700名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

オープンキャンパスでは、各学科・講座・コースの説明会場が来場者の集合場所となり、説明会前には、多くの来場者で構内が賑わいました。それぞれの説明会場では、学長のビデオメッセージに始まり、お茶の水女子大学の特徴的な教育プログラムである「文理融合リベラルアーツ教育」や「複数プログラム選択履修制度」、多岐にわたるグローバル教育、本学独自の奨学金、学生寮、多様な入試制度など、大学の教育の特色について説明がなされ、その後、各学部・学科・講座・コースの説明、模擬授業や在学生・教員による個別相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが実施されました。新たな取り組みとして、AO入試(新フンボルト入試)説明会にて、AO入試合格者による座談会を開催しました。在学生の話に、参加者は熱心に

耳を傾けていました。また、今年3月にオープンした国際交流留学生プラザにも、多くの来場者が訪れていました。

昨年から開催している、事前申込者による学長への質問コーナーでは、参加者からお茶大で学ぶ意義、女性の社会進出に関わる問題などについて質問があり、学長が自身の経験も交えて丁寧に回答していました。

また、各種相談・質問コーナー、附属図書館、歴史資料館、お茶大の学園祭〔徽音祭〕情報コーナー、大学生協(食堂体験、グッズ販売)にも、連日多くの方にお越しいただきました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちしております。



模擬授業(食物栄養学科)



学科説明会

お茶の水女子大学と東北大学が「包括協定」を締結しました ……………

お茶の水女子大学と東北大学は、7月19日(金)、AI・数理・データリテラシー教育、グローバル女性リーダー育成、ダイバーシティの推進等、お互いの強みをもって協力体制を構築することを目的に、クロスアポイントメントを活用した研究力強化、研究拠点形成、研究成果の社会実装、協働人材育成などを内容とした包括連携協定を締結しました。

1913年に日本で初めて帝国大学として東北大学が女子学生3名を受け入れた際、2名はお茶の水女子大学の前身である女子高等師範学校の卒業生でした。その1人である黒田チカ氏は、天然色素の研究に従事し、日本初の女性理学士、日本で2番目の女性理学博士となり、東京女子高等師範学校教授、お茶の水女子大学教授として教鞭をとりました。

今般、この縁を契機に両大学間で連携協力協定を締結し、教育、研究、学生交流、産学連携、地域連携への貢献及び両大学が必要と認める事項を連携事項として進めてまいります。具体的には、まずはクロスアポイントメントによる研究者交流として、東北大学からはお茶の水女子大学の工学・情報科学系教員ニーズに応じて同分野の教員を受け入れ、お茶の水女子大学からは東北大学のダイバーシティ推進のための教員を派遣いたします。

また、本年6月に文理融合AI/IoTを駆使した文理融合型の教育・研究拠点の充実と、女性のアクセシビリティを意識した工学の構築及びその社会実装に向けた共同開発、事業化に連携して取り組むこととしております。

締結式では、本学の室伏学長からは、AI、IoT社会の女性リーダー育成に向けて、東北大学の野英男総長からは、ダイバーシティの推進、ジェンダーバランスの向上に向けて、お互いの大学の強みを生かした連携強化を図ってきたいとの発言がありました。



AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを 開催しました

2019年9月28日(土)に新フンボルト入試の一次選考に当たるプレゼミナールを実施し、受験生219名を含む454名の高校生が参加してくれました。新フンボルト入試の導入4年目にして、受講生、受験生ともに過去最高の参加者数です。新入試制度の志願状況の推移としては希有なことです。

このプレゼミナールは、受講者をAO入試受験生だけに限定するのではなく、広く高校2・3年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあります。また昨年度までは2日にわたって開催してきましたが、今年度よりメニューを凝縮し、土曜日1日で完結させるかたちで実施しました。

文系分野から6つ、理系分野は7つ、計13の多彩なセミナーを開講し、担当教員がそれぞれ熱のこもった授業を行って、学問の世界をライブで体験してもらいました。また受験生以外の高校2・3年生を対象とした図書館

情報検索演習、理学部生物学科大学院生による研究ポスター発表・自主研究課題相談会も従来通り開催し、これらのプログラムにも多くの高校生が参加してくれました。

従来の入試では、大学が受験生を一方的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、という性格が強かったと思います。それに対して、この新型AO入試は、(誤解を恐れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、高校生に大学での学びとはどういうものであるかを垣間見てもらい、その上でぜひお茶大で学びたいと強く思ってもらえる(お茶大を「選んでもらう」)入試にしたいと考えています。来年も、さらに多くの意欲的な高校生がこの新型入試にチャレンジしてくれることを願っています。



全体説明会の様子



セミナー(理系)の様子

生協1Fエリアをリニューアルし、内覧会を開催しました



設計はお茶の水女子大学非常勤講師でもある鍋野友哉先生のアトリエを中心に、元岡研究室との連携により学生参加を意識して進められました。

今回の改修ポイントは大きく3つになります。1つ目は軽食販売を行っていたリモーネを多目的ホールとし、つながりが生まれる空間となりました。2つ目は購買店内にコの字型の総合カウンターを配置し、ピーク時でも旅行や運転免許、スクール、書籍の注文などが利用しやすくなりました。3つ目はリモーネの厨房を購買店内に移設し、手づくりのお弁当やお惣菜が販売できるようになりました。

また生協60周年及び改修を機に、多目的ホールに「…noma(ノマ:みんなの間)」、店舗に「…noco(ノコ:みんなのCOOP)」と愛称をつけました。

内覧会前には室伏きみ子学長が元岡先生と学生の案内で見学されました。内覧会には大学関係者及び生協関係者約30名が参加し、三浦副学長、新名生協理事長から挨拶があり、元岡研究室の大河内さんから改修の説明がありました。その後、三浦副学長、新名生協理事長、生協学生委員長平井さんによるテープカットが行われ、内覧に移り閉会となりました。

今後も大学生活が豊かになるよう利用者の声を大切に、より良い福利厚生を目指します。



テープカットの様子

多目的ホールとなった…noco

生協1Fエリアの改修を行い9月30日に内覧会が開催されました。

「Refresh・Link」をコンセプトにして学生や教職員が気分転換でき癒されるような空間にしました。また、「人と人」、「人ともの」など、多くのつながりが築けるお店を目標にしています。

改修は60周年を迎えるお茶の水女子大学消費生活協同組合の寄付で行いました。